

大阪大谷大学 教職教育センター紀要

第 6 号

| | |
|---|-------------------------------------|
| 大阪大谷大学教職教育センター紀要第 6 号発刊にあたって | 藤村 裕爾… 1 |
| 高度情報通信ネットワーク社会における 知的資源共有のあり方に関する基礎的研究 ——学校教育現場における「発信」の法的・倫理的課題に着目して—— | 開沼 太郎… 2 |
| 《研究ノート》 | |
| 学びの充実を図る博物館へ ——今、構成主義の教育を読んで—— | 一丸 忠邦… 16 |
| 実践力のある教員の養成を目指して ——学校現場研修における生徒理解能力向上を目指したプログラム—— | 三木 伸吾… 30 |
| 《資料紹介》 | |
| 中学校学習指導要領社会科の変遷 (3) ——社会科教師の変遷—— | 松田 智弘… 38 |
| 《事業報告》 | |
| 平成 26 年度「大阪大谷大学教職教育センター」事業報告 | 藤村 裕爾… 47 山田 誠 川合 智子 岡崎由紀美 |
| 敵を知り己を知れば百の面接殆うからず ——相手の立場でノウハウからノウホワイへ—— | 浦部 孝英… 61 |
| 「総合的学習の研究」の講義を通して 培いたかったこと、伝えたかったこと | 井上 雅彦… 70 |

2015 年 3 月

大阪大谷大学教職教育センター

Osaka Ohtani University

Teacher Training Support Center Bulletin

Volume 6

| | | |
|---|--|----|
| Message from the Center Director | FUJIMURA, Yuji | 1 |
| 《Article》 | | |
| A Preliminary Study on How Intellectual Resources should be Shared in the Advanced Information and Communications Network Society : Focusing on Legal and Ethical Issues related to “transmission” at School Education | KAINUMA, Taro | 2 |
| 《Research Notes》 | | |
| An Invitation to Museums which Enhance Learning : Notes Made through Reading Constructivist Education Literature | ICHIMARU, Tadakuni | 16 |
| Aiming to Nurture Practical Skills of Aspiring School Teachers : Field Experience Program to Enhance Ability to Understand Pupils and Students | MIKI, Shingo | 30 |
| 《Documentation》 | | |
| Postwar Human Resource Development Seen from the Curriculum Guideline of Social Studies at Lower Secondary Level and its Transitions (3) | MATSUDA, Tomohiro | 38 |
| 《Activity Reports》 | | |
| Overview of Teacher Training Support Center Activities in 2014 | FUJIMURA, Yuji YAMADA, Makoto KAWAI, Tomoko OKAZAKI, Yukimi | 47 |
| Know Your Enemy, Know Thyself, and You Shall Not Fear a Hundred Interview Tests : From Know-How to Know-Why through Looking from the Other Person’s Perspective | URABE, Takahide | 61 |
| What I Aimed to Nurture and What I Aimed to Pass Down to Students through a Lecture Series of “Research on Integrated Study” | INOUE, Masayuki | 70 |

Teacher Training Support Center
Osaka Ohtani University

【事業報告】

平成 26 年度

「大阪大谷大学教職教育センター」事業報告

藤村 裕爾* ・ 山田 誠**

川合 智子*** ・ 岡崎由紀美****

I. 平成 26 年度

1. 新たな取り組み

①卒業生対象講座

平成 26 年 4 月に大阪大谷大学ハルカスキャンパスが開設されたことを機会に、卒業生対象の講座「ハル☆スタ」を実施した。

内容は、外部講師による一般教養・教職教養の講義および、面接・模擬授業等で構成し、卒業生対象であることから、土曜日に実施することとした。

広報の時期が遅く申込み期間が短かったこともあり、卒業生への周知が難しく申込者が 9 名にとどまった。在学生にも希望者を募り、合計 13 名で実施したが、講師をしている卒業生が多く、土曜であっても仕事で出席できない日があり、実施方法は今後の課題となった。

②チャレンジテスト対策講座の実施

大阪府教育委員会が平成 25 年度に発表した、教員採用試験の前段階である「大阪府教員チャレンジテスト」の対策講座を 25 年度末に実施した。この時点では、テストの詳細が不明だったため、一般教養と教職教養を含めた内容にしていたが、年度が変わり、教職教養のみのテストであることが発表され、急遽教職教養に特化した対策講座を夏期休暇中に実施した。

③一斉休業中の開室

例年、夏期一斉休業中は、大学の全ての窓口が停止し、教職教育センターも閉室していたが、教育学部から教員採用試験の二次試験前でもあり開室できないかと打診があり、教職対策委員会で検討した結果、7 日間の休業日の内、2 日間を試験的に開室することとなった。

*大阪大谷大学教職教育センター長

**大阪大谷大学教職支援課長補佐

***大阪大谷大学教職支援係長

****大阪大谷大学教職支援課課員

※①～③についての詳細は、後述の V. 行事報告参照

2. 組織および配置

平成 26 年度の教員、職員の配置は次のとおりである。

教員：センター長（兼務） 1 名

センター教員（兼務） 2 名

教職教育担当特任教授 2 名

職員：教職支援課 課長補佐 1 名、係長 1 名、課員 1 名

派遣職員 2 名（合計：専任 3 名、派遣 2 名）

センター長および、教職教育担当特任教授の業務内容も変更なく運営に携わっていただいた。

教職教育センター室の開室時間

平成 21 年度 平日 9:00～17:30

土曜 9:00～12:30

平成 22～26 年度 平日 9:00～11:20 12:20～17:30

土曜 9:00～12:30

II. 業務内容

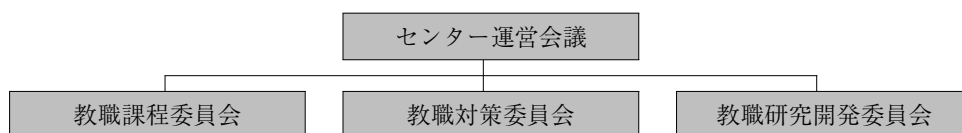
1. 教職支援課の役割

教員免許状を取得するには、教職課程をはじめ、免許状取得に必要な科目の履修が必要である。履修登録時の履修相談に始まり、前年度の内諾から始まる教育実習の事務的な手続きや、教職実践演習や履修カルテに関する業務、教員免許状の申請に関する業務等に携わっている。

教職に就くためには、学力や知識に加え、学校現場における実践力が不可欠である。教職支援課では、教員を目指す学生に対して、教員に求められる教養を身につけるための支援の他、大学の授業や自学自習だけでは補えない実践力を養うための各種支援を行っている。入学後の早い段階に学校現場を訪問する行事「教師のお仕事入門」を始めとして、「学校支援学生ボランティア活動」、正課として実施している「教育インターンシップ」など、学校現場が体験できる活動への参加を推奨している。教員を目指す学生に対して、教員として必要な資質能力を深め、教員になる夢を達成できるまで継続した支援を行っている。

2. 委員会

教職教育センター運営会議をはじめ教育職員養成課程委員会、教職対策委員会、教職研究開発委員会を 3 本柱にしてセンターを運営している。



センター運営会議

第 1 回

日時：平成 27 年 1 月 29 日（水）12：20～13：00

場所：センター会議室

議題：平成 26 年度を振り返って
次年度に向けて

教職課程委員会

第 1 回

日時：平成 26 年 4 月 16 日（水）12 時 20 分～12 時 50 分

場所：センター会議室

議題：教職課程委員長選出について
平成 26 年度の教育実習等（訪問担当）について
平成 26 年度免許更新講習実施について
平成 26 年度教職課程予算について

第 2 回

日時：平成 26 年 6 月 18 日（水）12 時 20 分～12 時 50 分

場所：センター会議室

議題：平成 26 年度「介護等体験」に関する共通理解及び、和泉支援学校の受付について
免許状更新講習について

第 3 回

日時：平成 26 年 11 月 12 日（水）12 時 15 分～13 時 00 分

場所：センター会議室

議題：履修カルテについて
平成 26 年度「教育実習」の課題について
平成 26 年度「介護等の体験」の課題について
教育職員免許法施行規則等の一部改正について
教職実践演習の補講について

第 4 回

日時：平成 27 年 2 月 25 日（水）13 時 00 分～14 時 00 分

場所：センター会議室

議題：平成 27 年度「教育実習日誌」「教育実習依頼について（内諾冊子）」について

平成 26 年度教育実習、実習校からの教育実習に関する意見について

平成 26 年度「教育実習」「介護等の体験」の課題について

平成 27 年度「実習」の誓約書について

教職課程における情報公開について

卒業判定不可学生の二種免取得について

教職対策委員会

第 1 回

日時：平成 26 年 7 月 23 日（水）12 時 20 分～12 時 45 分

場所：センター会議室

議題：大学一斉休業中の教職教育センター開放について

第 2 回

日時：平成 26 年 9 月 10 日（水）12 時 20 分～12 時 50 分

場所：センター会議室

議題：次年度教職基礎演習について

次年度対策委員の選出について

教職研究開発委員会

第 1 回

日時：平成 26 年 7 月 9 日（水）12 時 20 分～12 時 50 分

場所：センター会議室

議題：委員長・副委員長の選出

センター紀要 6 号について

第 2 回

日時：平成 27 年 1 月 28 日（水）12 時 20 分～12 時 50 分

場所：センター会議室

議題：センター紀要の現状報告について

「大阪大谷大学教職教育センター紀要編集規程」の改訂について

3. 教職課程・教育実習・介護等の体験

《教職課程》

平成 26 年度入学生

文学部日本語日本文学科、歴史文化学科、教育学部教育学科、人間社会学部人間社会学科、スポーツ健康学科の3学部5学科および教育福祉専攻科、大学院文学研究科日本文学専攻、文化財学専攻の2専攻に教職課程が設けられている。

本学で取得できる免許状

学部…幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（国語・外国語（英語）・社会・保健体育）、高等学校教諭一種免許状（国語・外国語（英語）・地理歴史・公民・保健体育・福祉）、特別支援学校教諭一種免許状（領域：知的障害・肢体不自由・病弱）、

専攻科…幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状

大学院…中学校教諭専修免許状（国語・社会）、高等学校教諭専修免許状（国語・地理歴史）

《教育実習》

教育実習に行く前年度に、教育実習内諾オリエンテーションを実施しており、このオリエンテーションへの出席数等で教育実習を希望する学生数を把握している。平成 24 年度から平成 26 年度の人数は表 1 のとおりである。（「教育実習生数」には、科目等履修生を含む。）

表 1 内諾オリエンテーションおよび教育実習生数一覧

| 年度 | 校種 | 内諾オリエンテーション出席者数※ | 教育実習生数 |
|-------------|--------|------------------|--------|
| 24 年度 実習 | 幼稚園 | 68 | 63 |
| | 小学校 | 162 | 152 |
| | 中・高等学校 | 169 | 149 |
| | 特別支援学校 | 102 | 95 |
| | 計 | 501 | 459 |
| 25 年度 実習 | 幼稚園 | 103 | 96 |
| | 小学校 | 102 | 128 |
| | 中・高等学校 | 162 | 130 |
| | 特別支援学校 | 110 | 104 |
| | 計 | 477 | 458 |
| 26 年度 実習 | 幼稚園 | 119 | 111 |
| | 小学校 | 104 | 94 |
| | 中・高等学校 | 172 | 149 |
| | 特別支援学校 | 97 | 94 |
| | 計 | 492 | 448 |

※実習前年度に実施

《介護等の体験》

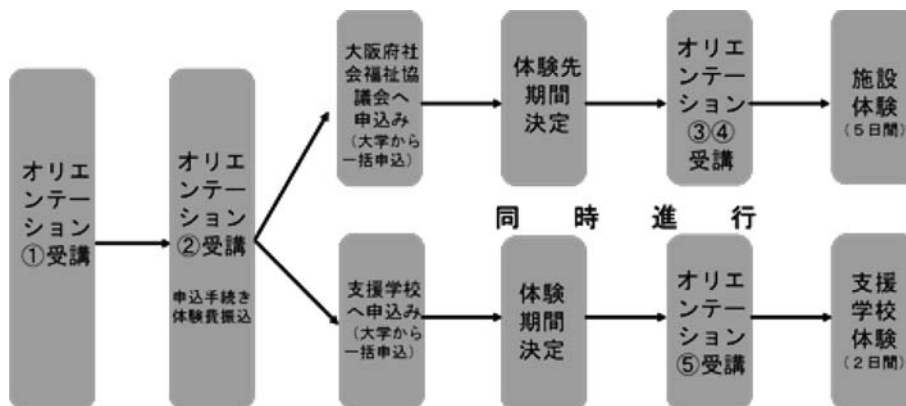
センターで業務を開始して5年が経過した。新しく浮上した問題点を考慮し、オリエンテーションの実施方法等は毎年改善を試みている。平成25年度前期申込み学生から、体験1か月前に昼休みを利用して直前オリエンテーションを実施している。その目的は、体験に対する心構えを再度確認するものである。これにより、体験意欲の向上につながり提出書類の不備などを激減させることができた。しかし一部の学生においては、オリエンテーションの内容を理解しないまま体験に行き、施設へご迷惑をかける事態になる場合がある。今後も「介護等の体験」の意義や内容理解に重点を置き指導に努めていきたい。

表2 介護等の体験者数

| | 学科 | 申込者数 | | 終了者数※ | |
|----------|-----------|------|-----|-------|-----|
| | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 平成 24 年度 | 日本語日本文学科 | 15 | 4 | 12 | 4 |
| | 英米語学科 | 3 | 5 | 3 | 5 |
| | 文化財学科 | 4 | 3 | 4 | 3 |
| | 教育福祉学科 | 23 | 96 | 21 | 91 |
| | 人間社会学科 | 24 | 27 | 21 | 25 |
| | 科目等履修生 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| | 計 | 69 | 137 | 61 | 130 |
| 平成 25 年度 | 日本語日本文学科 | 4 | 9 | 4 | 9 |
| | 英米語学科 | 5 | 11 | 5 | 10 |
| | 文化財学科 | 9 | 7 | 7 | 7 |
| | 教育福祉・教育学科 | 26 | 116 | 23 | 113 |
| | 人間社会学科 | 11 | 60 | 8 | 58 |
| | 科目等履修生 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| | 計 | 55 | 205 | 47 | 199 |
| 平成 26 年度 | 日本語日本文学科 | 10 | 11 | 10 | 10 |
| | 英米語学科 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| | 文化財学科 | 1 | 2 | 1 | 2 |
| | 教育福祉・教育学科 | 3 | 96 | 3 | 94 |
| | 人間社会学科 | 2 | 2 | 1 | 2 |
| | スポーツ健康学科 | 0 | 64 | 0 | 57 |
| | 科目等履修生 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| | 計 | 17 | 177 | 16 | 167 |

※…施設5日間、支援学校2日間両方の体験終了者数

平成 26 年度「介護等の体験オリエンテーションの流れ」



4. 免許状更新講習

今年度は、平成 25 年度と同じく 4 講習を実施した。

表 3 免許状更新講習参加者数

| 年度 | 講座名 | 領域 | 実施日 | 時間 | 定員 | 受講者数 |
|----------|-------------|----|---------------------|----|----|------|
| 平成 24 年度 | 特別支援教育講座 | 選択 | 8 月 3 日 (金)～7 日 (火) | 18 | 50 | 57 |
| | 幼児教育講習 | 選択 | 8 月 6 日 (月) | 6 | 60 | 17 |
| | 学校教育講習 | 選択 | 8 月 7 日 (火) | 6 | 60 | 21 |
| | 中学・高等学校教育講習 | 選択 | 8 月 8 日 (水) | 6 | 60 | 8 |
| | 計 | | | | | 103 |
| 平成 25 年度 | 特別支援教育講座 | 選択 | 8 月 2 日 (金)～6 日 (火) | 18 | 50 | 44 |
| | 幼児教育講習 | 選択 | 8 月 5 日 (月) | 6 | 60 | 13 |
| | 学校教育講習 | 選択 | 8 月 6 日 (火) | 6 | 60 | 4 |
| | 中学・高等学校教育講習 | 選択 | 8 月 7 日 (水) | 6 | 60 | 4 |
| | 計 | | | | | 65 |
| 平成 26 年度 | 特別支援教育講座 | 選択 | 8 月 1 日 (金)～5 日 (火) | 18 | 50 | 50 |
| | 幼児教育講習 | 選択 | 8 月 4 日 (月) | 6 | 60 | 33 |
| | 学校教育講習 | 選択 | 8 月 5 日 (火) | 6 | 60 | 12 |
| | 中学・高等学校教育講習 | 選択 | 8 月 6 日 (水) | 6 | 60 | 7 |
| | 計 | | | | | 102 |

5. 教職教育センターレポート

専任教員には、教職教育センターで実施している行事の案内や、教員採用試験の情報を報告し、センターの存在を PR する手段として「教職教育センターレポート」をメール配信している。

今年度の内容は以下のとおりである。

| 号 数 | 配信年月日・内容 |
|--------|---|
| 26-1 号 | 平成 26 年 4 月 12 日 ・平成 26 年度実施 教員採用試験「大学推薦」のお知らせ |
| 26-2 号 | 平成 26 年 5 月 10 日 ・「教師のお仕事入門」（小学校体験）のご案内 ・「教採学内セミナー」のご案内 ・基礎学力向上講座「ハル☆スタ」のご案内 |
| 26-3 号 | 平成 26 年 6 月 26 日 ・平成 27 年度採用 教採採用試験 関東地区へのバス運行について ・特別支援教育対策講座 ・一次試験面接対策のご案内 |
| 26-4 号 | 平成 27 年 1 月 9 日 ・「教師のお仕事入門」（小・中学校 高等学校体験）のご案内 ・「一般教養・教職教養対策講座」のご案内 |

6. 大阪大谷大学教職教育センター紀要

「大阪大谷大学教職教育センター紀要」第 6 号を発行。

Ⅲ. 大学教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）の継続

名称：『免許を「とりたい」から教員に「なりたい」へつなぐ学生就職支援』

期間：平成 21 年度～平成 23 年度

内容：『教師の仕事入門講座』『学力向上基礎講座』『現場実践経験基礎講座』

1. 『教師の仕事入門講座』、『現場実践経験基礎講座』

継続事業として「教師のお仕事入門」「実践アクセス講座」を実施している。「教師のお仕事入門」は、近隣の小学校、中学校、高等学校にご協力いただき学校現場を訪問し、児童・生徒との交流を目的としている。「実践アクセス講座」は、現職教員、指導主事等の講師をお招きし、学校現場の現状を講義していただく授業を公開している。これらは、現場経験のない学生に、実践的指導力を身につける貴重な機会と考えている。今年度の「実践アクセス講座」を表 4 のとおり実施した。

表 4 平成 26 年度「実践アクセス講座」一覧

| | 月日 | テーマ | 講師 | 科目 |
|---|-----------|--|--------|----------|
| 1 | 5月9日(金) | 大阪の子どもたちの学力の現状と課題、学力向上の取り組み等について | 宇野木 邦治 | 学校教育演習Ⅱ |
| 2 | 5月16日(金) | 大阪の子どもたちの生徒指導上の課題と対策について、-いじめ・不登校を中心に- | 森田 好一 | 学校教育演習Ⅱ |
| 3 | 10月17日(金) | 小学校における総合的な学習の実践 | 志野 善崇 | 総合的学習の研究 |
| 4 | 10月31日(金) | 小学校における総合的な学習の実践 | 大西 亮一 | 総合的学習の研究 |
| 5 | 11月21日(金) | 中学校における総合的な学習の実践 | 森山 伸治 | 総合的学習の研究 |
| 6 | 12月12日(金) | 教員をめざすあなたに | 岩井 智代子 | 学校教育演習Ⅰ |

2. 『学力向上基礎講座』

継続事業である「基礎学力向上講座」(学内通称名「タニ☆スタ 6」)を平成 26 年度も実施した。前年度までは一般教養の講座であったが、大阪府のチャレンジテストや教員採用試験の一次筆答試験が教職教養に特化されたことに対応し、新しく教職教養のクラスを設けた。近隣の大学においても教職教養の需要が増え、講師不足によって熟練講師の手配が難しく、講師の決定が開講直前になったこと、また講師の熟練度もまちまちであったことが次年度への課題となった。開講時間は、授業終了後の 6 限を利用してしたが、正課の補講が 6 限に設定されることが徐々に増え、補講出席による講座欠席者への処置として、該当する講座を録画し、希望者には録画で学習できるように努めた。

表 5 平成 26 年度タニ☆スタ 6 受講者数

| 学科名 | クラス | A | B | C | D | E | F | 計 |
|--------------|-----|----|----|----|---|----|----|----|
| | 学年 | | | | | | | |
| 日本語 日本文学科 | 4 | | 2 | | | | | 2 |
| | 3 | | | | 2 | 1 | 2 | 5 |
| | 2 | | | | 1 | | 2 | 3 |
| | 1 | | | 3 | | 7 | 6 | 16 |
| 英米語学科 | 4 | | 1 | | | | | 1 |
| 文化財学科 | 4 | 1 | 2 | | | | | 3 |
| | 3 | | | 1 | 1 | | | 2 |
| | 2 | | | | | | | 0 |
| | 1 | | | 2 | | 2 | 4 | 8 |
| 教育福祉学科 | 4 | 13 | 31 | | | | | 44 |
| 教育学科 | 3 | | 2 | 12 | 8 | 8 | | 30 |
| | 2 | 1 | | 11 | 7 | 5 | 6 | 30 |
| | 1 | | | 26 | | 24 | 31 | 81 |

| | | | | | | | | |
|----------|---|----|----|----|----|----|----|-----|
| 人間社会学科 | 4 | | | | | | | 0 |
| | 3 | | | | | | | 0 |
| | 2 | | | 1 | | 3 | 2 | 6 |
| | 1 | | | | | 1 | 1 | 2 |
| スポーツ健康学科 | 4 | | 1 | | | | | 1 |
| | 3 | | | | 1 | | | 1 |
| | 2 | | 1 | | 5 | | 2 | 8 |
| | 1 | | | 1 | | 1 | 1 | 3 |
| 合計 | | 15 | 40 | 57 | 25 | 52 | 57 | 246 |

IV. 行事報告

センターで実施する行事は、前年度末に翌年度1年間分の行事を計画するが、今年度は、教育委員会の動向が大きく変わったことや低学年の学生が意欲的であることを考慮し、前倒しの計画を立てた。また、卒業生のサポートについても新たな取り組みを実施した。

昨年度来、教育学部より要望があがっていた夏期一斉休業中の教職教育センターの開室については、試験的に実施することとなった。

今年度の行事で、特記すべき行事は下記のとおりである。

1. 卒業生対象講座（ハル☆スタ）

卒業生サポートとして、講師をしながら、教員採用試験を再受験する予定の卒業生を対象とした教員採用試験対策講座を実施した。講座は、筆答試験対策と面接試験対策をセットにした内容とした。実施日時と内容は表6の通りである。

表6 ハル☆スタ時間割

| 日程 | 時間 | | | |
|----------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| | 1 10:30~12:00 | 2 13:00~14:30 | 3 14:40~16:10 | 4 16:20~17:50 |
| 4/26 (土) | 教育原理・教育史① | 教育原理・教育史② | 教育心理① | エントリーシート対策 |
| 5/10 (土) | 数学 | 理科 | 社会 | 面接対策 |
| 5/24 (土) | 教育法規① | 教育法規② | 教育法規③ | 面接対策 |
| 6/28 (土) | 教育時事① | 教育時事② | 教育心理② | 面接対策 |
| 8/9 (土) | 模擬授業対策 | 模擬授業対策 | 面接対策 | 面接対策 |

実施場所：大阪大谷大学ハルカスキャンパス
受講料：無料（テキスト代¥1,000のみ実費負担）

2. チャレンジテスト対策講座

平成 26 年度 5 月に、「大阪府教員チャレンジテスト」についての詳細が明らかになったことを受け、教職教養の初歩的な内容を押さえたうえで基礎的な問題に対応できる力を養うための講座を実施した。

表 7 チャレンジテスト対策講座

| 学年 | 平成 25 年度（春季） | | | | | 平成 26 年度（夏期） | | | | |
|------|--------------|----|---|---|----|--------------|----|----|---|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 計 | 1 | 2 | 3 | 4 | 計 |
| 参加者数 | 30 | 44 | 1 | 0 | 75 | 7 | 40 | 41 | 1 | 89 |

また、直前には、教職教育センター長が学習のポイントと学習方法を中心とした講座を実施した。

チャレンジテストを 1 つの目標とし、学習に取り組む学生が増えた。モチベーションを維持し、学習習慣を定着させることは課題として残っているが、次年度以降は、さらに充実した内容となるよう検討し、講座を実施したいと考えている。

3. 一斉休業中の開室

教員採用 2 次試験の直前対策として、一斉休業中のうち 2 日間を開室した。

日時：8 月 14 日（木）、8 月 15 日（金） 両日とも 9:00～16:00

内容：模擬授業、面接指導、教員採用試験に関する相談

利用人数：14 日（木）44 名、15 日（金）45 名、計 89 名

協力教職員：教員 6 名、職員 2 名

4. 教師塾（教員採用試験）面接・エントリーシート対策講座

教師塾入塾選考が年々加熱していることから、入塾のための対策を早める必要があり、年度末の春期休業中に 2・3 回生対象「教師塾対策講座」（エントリーシート対策を兼ねる）を実施した。

日時：①平成 27 年 2 月 25 日（水）2 限

②平成 27 年 3 月 4 日（水）2 限

参加者数：64 名

5. 人間社会学部との連携

一昨年・昨年に引き続き、人間社会学部の「基礎ゼミ I（学習技術）」（1 回生）の授業時間に、教職に関する情報提供を行った。今年度は、教員採用試験に合格した 4 回生からの報告の

あとに情報提供の時間が設けられたため、1 回生にもイメージがつかみやすかったようである。

日時：平成 26 年 11 月 12 日（水）2 限

対象：人間社会学部 1 回生 175 名

（内訳：人間社会学科 68 名、スポーツ健康学科 107 名）

その後、12 月 2 日に実施した 1 回生対象「教職オリエンテーション」に参加した学生が記したコメントには、「自己分析ノートを作り、講座に出る」とあり、学生の心に響く良い機会になったと実感した。

教職教育センターの存在は学生の間に着しているものの、行事への参加者は一部の学生である感は否めない。より多くの学生に知らせるための告知方法について、工夫する必要があると感じている。

ここに挙げた以外の行事实施状況は、次頁表 8 のとおりである。

以上、平成 26 年度の教職教育センター事業活動をまとめた。

平成 27 年度も、センター教職員一同新たな気持ちで、教職を目指す学生の支援を一層充実させていきたいと願っている。

平成 26 年度「大阪大谷大学教職教育センター」事業報告

表 8 平成 26 年度 教職教育センター 年間行事一覧

| カテゴリ | 月 | 日(曜) | 時間 | 行事名 | 内容 | | |
|--------------|--------|------|---------|---------------------|---|--|--|
| 教職オリエンテーション | 1 回生 | 6 | 10日(火) | 昼休 12:15-12:55 | 1回生 教職オリエンテーション 学校の先生になりたい人へ | 学校の先生になるには？ | |
| | | 12 | 2日(火) | 昼休 12:15-12:55 | 1回生 教職オリエンテーション | どんな勉強をするの？ | |
| | 2 回生 | 6 | 3日(火) | 昼休 12:15-12:55 | 2回生 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって | 小・中・高・特支・政令指定都市の幼 勉強の進め方、資質の向上について講義 | |
| | | 10 | 15日(水) | 5限 16:20-17:50 | 2回生 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって | 小・中・高・特支 勉強の進度チェックおよび資質の向上について講義 | |
| | 3 回生 | 5 | 17日(土) | 3限 13:00-14:30 | 3回生 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって | 学習方法・情報収集について 幼稚園を除く全校種 外部講師による講演 | |
| | | 10 | 1日(水) | 5限 16:20-17:50 | 3回生 教職オリエンテーション 筆記試験対策を中心に | 小・中・高・特支・政令指定都市の幼 教員採用試験の傾向と対策 次年度の採用試験に向けて、外部講師による講演 | |
| | | 11 | 26日(水) | 5限 16:20-17:50 | 3回生 教職オリエンテーション 教員採用試験対策 | 秋から始める勉強について 教員採用試験体験談(4回生との交流) | |
| | | 1 | 7日(水) | 5限 16:20-17:50 | 3回生 教職オリエンテーション 教員採用試験情報 一般・教職教養対策を中心に | 次年度の教員採用試験に向けての最新情報と対策 外部講師による講演(有料講座の募集案内を含む) | |
| | | 2 | 21日(土) | 4限 14:40-16:10 | 3回生 教職・幼稚園オリエンテーション 教員採用試験について | 卒業生との懇談会 有料講座の日程に併せて実施 | |
| | | | | | | | |
| 幼稚園オリエンテーション | 1・2 回生 | 6 | 24日(火) | 昼休 12:15-12:55 | 1・2回生 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員を目指すにあたって | 幼稚園教員希望者 幼稚園の先生になるには？ | |
| | | 12 | 12日(金) | 昼休 12:15-12:55 | 1回生 幼稚園オリエンテーション | 勉強の進め方、資質の向上について講義 | |
| | | 11 | 19日(水) | 5限 16:20-17:50 | 2回生 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員を目指すにあたって | 幼稚園教員希望者対象 勉強の進度チェックおよび資質の向上について講義 | |
| | 3 回生 | 5 | 20日(火) | 昼休 12:15-12:55 | 3回生 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員を目指すにあたって | 学習方法・情報収集について (私立幼稚園を含む) (注)予備日は開講しないこともあります。 | |
| | | | 30日(金) | 昼休 12:15-12:55 | 3回生 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員を目指すにあたって <予備日> | | |
| | | 11 | 12日(水) | 4限 14:40-16:10 | 3回生 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員採用試験対策 | 秋から始める勉強について 教員採用試験体験談(4回生との交流) | |
| | 全 | 10 | 29日(水) | 4限 14:40-16:10 | 幼稚園・保育所・福祉施設ガイダンス | 採用試験に向けての学習対策 外部講師による講演(就職課と合同実施) | |
| お仕事入門 | | 5 | 21日(水) | 午前 | 1回生 教師のお仕事入門(小学校①) | 授業見学&児童との交流 グループに分かれて、教室を訪問 場所 小 学 校・・・富田林市立錦織小学校 小・中 学 校・・・堺市立さつきの小学校・中学校 高等学校①④・・・大阪府立富田林高等学校 高等学校②③・・・大阪府立河南高等学校 | |
| | | 6 | 4日(水) | 午前 | 1回生 教師のお仕事入門(小学校②) | | |
| | | 9 | 11日(木) | 終日 | 1回生 教師のお仕事入門(小・中学校①) | | |
| | | 9 | 16日(火) | 午前 | 1回生 教師のお仕事入門(高等学校校①) | | |
| | | 9 | 17日(水) | 午前 | 1回生 教師のお仕事入門(高等学校校②) | | |
| | | 9 | 17日(水) | 終日 | 1回生 教師のお仕事入門(小学校③) | | |
| | | 2 | 6日(金) | 午前 | 1回生 教師のお仕事入門(高等学校校③) | | |
| | | 2 | 12日(木) | 終日 | 1回生 教師のお仕事入門(小・中学校②) | | |
| | | 2 | 13日(金) | 午前 | 1回生 教師のお仕事入門(高等学校校④) | | |
| | | | | | | | |
| 教員採用試験対象講座 | 実技等 | 4 | 6 | 30日(月) | 昼休 12:15-12:55 | 4回生 教員採用(幼稚園含む)特別対策講座 小論文 | 文章を書く際の注意点や原稿用紙の使い方などについて、 教育学部の教員より説明。その後は個別指導 |
| | | 7 | 29日(火) | 5限 16:20-17:50 | 4回生 教員採用(幼稚園含む)特別対策講座 小学校外国語活動解説 | 教員採用試験専門試験(小学校全科)で押さえておくべきポイントについて説明 | |
| | | 8 | 2・9・19日 | 2・9⇒1・2限 19⇒3・4限 | 4回生 教員採用(幼稚園含む)特別対策講座 体育実技 | 跳び箱、マット、ハードル、ボール運動、水泳について、 教育学部教員、教職教育センター教員、外部講師で指導 | |
| | 筆記 | 5 | 5 | 10日(土) | 4限 14:40-16:10 | 4回生 教員採用試験 筆記対策講座 | 小・中・高・特支・政令指定都市の幼 直前対策 外部講師による講演 |
| | | 5 | 5 | 21日(水) | 4限 14:40-16:10 | 4回生 幼稚園教員採用試験 筆記対策講座 | 幼稚園教員希望者 直前対策 外部講師による講演 |
| | | 7 | 7 | 2日(水) | 4限 14:40-16:10 | 4回生 教員採用試験 特別支援教育対策講座 | 採用試験で押さえておくポイントについての講義 |
| | | | | | | | |

平成 26 年度「大阪大谷大学教職教育センター」事業報告

| | | | | | | |
|------------------------|--------------|------------|---------------------|---------------------------------|--|--|
| 教員採用試験対策講座 | 4 回生対象 面接 | 4 | 15日(火) | 4限 14:40-16:10 | 4回生 教員採用試験 面接対策講座 | 面接・エントリーシート対策 志望動機・自己PRのつくりかた |
| | | | 25日(金) | 5限 16:20-17:50 | 4回生 教員採用試験 面接対策講座 <予備日> | |
| | | 5 | 20日(金) | 4限 14:40-16:10 | 4回生 教員採用試験 面接対策講座 | エントリーシート・面接対策(主に集団面接) 注意と心得及び自己PR |
| | | | 23日(金) | 5限 16:20-17:50 | 4回生 教員採用試験 面接対策講座 <予備日> | |
| | | 6 | 25日(水) | 4・5限 14:40-17:50 | 4回生 教員採用試験 面接対策講座 実践編 | 模擬面接(集団・個人)・集団討論対策 心得及び実践 |
| | | 7 | 2日(水) | 5限 16:20-17:50 | 4回生 教員採用試験 面接対策講座 実践編 | 模擬面接・集団討論 自己PR・志望動機・現場での課題等について最終確認 |
| | | | 30日(水) | 4・5限 14:40-17:50 | 4回生 教員採用試験 面接対策講座 二次編 | 模擬面接(個人)・集団討論・模擬授業対策等 講義及び実践 二次試験対策 |
| 教師塾 | 説明会 | 5 | 2日(金) | 昼休 12:15-12:55 | 3・4回生 大阪市教師養成講座説明会 | 大阪市教育委員会担当講師による説明 |
| | | | 9日(金) | 昼休 12:15-12:55 | 3・4回生 堺・教師ゆめ塾説明会 | 堺市教育委員会担当講師による説明 |
| | | | 13日(火) | 昼休 12:15-12:55 | 3回生 大阪教志セミナー説明会 | 大阪府教育委員会担当講師による説明 |
| | 対策講座 | 4 | 26日(土) | 午前 | 3・4回生 教師塾対策講座 | 各教育委員会が主催する教師塾に入塾するための対策申込書作成についての説明 |
| | | 5 | 17日(土) | 午前 | 3・4回生 教師塾対策講座 | 各教育委員会が主催する教師塾に入塾するための対策先輩のお話を聞き面接やエントリーシート作成の説明及び模擬授業 |
| | | 2 | 25日(水) | 2限 10:40-12:10 | 2・3回生 教師塾対策講座 | 各教育委員会が主催する教師塾に入塾するための対策志望動機、自己PRのつくりかた、面接の心得について講義 |
| | | 3 | 4日(水) | 2限 10:40-12:10 | 2・3回生 教師塾対策講座 | |
| 講師登録説明会 | 9 | 23日(火) | 4限 14:40-16:10 | 4回生 講師登録説明会 | 講師の採用について 概要説明と登録の方法について説明 | |
| | 10 | 31日(金) | 5限 16:20-17:50 | 4回生 講師登録説明会 <予備日> | | |
| セ 教 ミ 採 ナ 学 内 | 4 | 10日(木) | 午後 | 4回生 教採学内セミナー <大阪府・大阪市・堺市> | (事前申し込み制) 教育委員会講師による説明会 各自治体の教員採用試験について、直接説明を聞く事ができます | |
| | 5 | 14日(水) | 4・5限 14:40-17:50 | 4回生 教採学内セミナー <和歌山県・奈良県・京都府他> | (事前申し込み制) 教育委員会講師による説明会 各自治体の教員採用試験について、直接説明を聞く事ができます | |
| | 11 | 14日(金) | 昼休 12:15-12:55 | 横浜市教員採用試験説明会 | 教育委員会講師による説明会 横浜市の教員採用試験について、直接説明を聞くことができます | |
| | 12 | 17日(水) | 4・5限 14:40-17:50 | 3回生 教採学内セミナー (近隣教育委員会) | (事前申し込み制) 教育委員会講師による説明会 各自治体の教員採用試験について、直接説明を聞く事ができます | |
| ボランティア | H26 3 | 29日(土) | 11:30 -12:30 | 学校支援学生ボランティア説明会・研修会 | 平成26年度にボランティア活動を行う予定の学生対象 ボランティア登録の手続き、ボランティア先の探し方など | |
| | H27 3 | 4日(水) | 3限 13:00-14:30 | 学校支援学生ボランティア修了式 | 平成26年度にボランティア登録をし、活動を行った学生対象 修了証書授与と体験談の発表 | |
| 教職模試 | 4 | 5日(土) | 午前 | 教職模試①(出題:時事通信出版局) 有料 | (幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文 | |
| | | 12日(土) | 午前 | 教職模試②(出題:東京アカデミー) 有料 | (小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養 | |
| | | 26日(土) | 午前 | 教職模試③(出題:時事通信出版局) 有料(補助あり) | (幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文 | |
| | 5 | 10日(土) | 午前 | 教職模試④(出題:東京アカデミー) 有料 | (幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養 | |
| | | 31日(土) | 午前 | 教職模試⑤(出題:時事通信出版局) 有料(補助あり) | (幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文 | |
| | 12 | 6日(土) | 午前 | 教職模試⑥(出題:時事通信出版局) 有料 | (幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文 | |
| | 1 | 10日(土) | 午前 | 教職模試⑦(出題:東京アカデミー) 無料 | (小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養 | |
| | 2 | 7日(土) | 午前 | 教職模試⑧(出題:協同出版) 有料 | (小・中・高) 教職教養・一般教養・専門教養 | |
| | 有料講座 | 長期 短期集中 | 4月~1月 | 6限 18:00-19:30 | タニ ヌスタ6 基礎学力向上講座 | 東京アカデミー担当講師による講義 次年度以降の採用試験に向けての学習対策 |
| 7 11日(金) | | | 昼休 12:15-12:55 | 教員採用試験対策講座案内他 説明会 | 有料講座の募集案内や情報収集方法など | |
| 8月・3月 | | | 2限~4限 | 一般教養対策講座 | 時事通信社担当講師による講義 | |
| 2月 | | | 2限~4限 | 教職教養対策講座 | 次年度以降の採用試験に向けての学習対策 | |
| 9月 | | | 2限~4限 | チャレンジテスト対策講座 | 時事通信社担当講師による講義 12月に実施される大阪府教員チャレンジテストに向けての学習対策 | |

【事業報告】

敵を知り己を知れば百の面接殆うからず

——相手の立場でノウハウからノウホワイへ——

浦部 孝英*

1. はじめに

2014年度も、「御嶽山噴火」や「消費税8%スタート」「ノーベル物理学賞受賞」等、各界の様々なニュースが伝えられた。教職支援センター（以下「センター」という。）にとっても、例えば「5歳からの義務教育！教員免許の小中一貫化」や「特別の教科、道徳」「大阪府教員チャレンジテスト実施」等のヘッドラインは、学生への情報提供や具体的な対応を要するニュースであった。

教員採用選考テスト（以下「教採」という。）合格を目指す学生にとっても、これらの「教育時事」は、筆記試験対策として不可欠の分野である。また、面接試験でも「最近、関心があったニュースとその理由を教えてください。」等の質問は定番となっている。「教師の視点」でニュースを捉え、「子どもの立場」を視野に入れた感度の良い回答に出会う時、面接官の心の針は大きく振れるものである。

また、一部自治体で開設されている、いわゆる教師塾においても、その主たる選考方法は面接となっている。

受験者は、自治体が何故、人物重視の傾向を強めているのかを的確に判断した上で、己の良さや個性をわかりやすく表現する力を求められている。伝える力を磨くための面接練習のニーズはますます高くなっている。

本稿では、キャリア教育科目である「学校教育演習Ⅰ・Ⅱ、教育学特講Ⅰ」の後期授業を受講した学生が、面接試験のノウハウを獲得していく中で、「面接官が何故その質問をするのか」というノウホワイ（know why）の重要性に気づいていく様子を学生の振り返りシートを中心に報告することにする。

*大阪大谷大学教職教育センター担当教授

2. 面接は、はじめの5秒で決まる

センターのオフィスに入室してくる学生を観察していると、ある違和感を覚えることがある。無表情で無言のまま、帽子を被ったまま、イヤホンをしたまま、マフラーを口元まで巻いたまま・・・どう見てもコミュニケーションを取るために入室したとは思われない・・・オフィスをどのように捉えるかは人さまざまであるが、「入口のドア1枚を隔てて何かが変わる」という態度を見せて入室する学生が爽やかに映るのはなぜだろうか。

挨拶をせずに入室する学生にもきっと考えがあるにちがいない。こちらから話しかけると、途端に表情が豊かになる学生も多いので安堵する。ひょっとすると、面接の場面だけ「ちゃんとできる」つもりの学生もいるかもしれないが、そんなに甘くはない。面接官の目は節穴ではない。社会人としての礼儀やマナーが身についているか否かは、はじめの5秒でわかってしまうのである。

しかし、どんなにベテランの面接官でも「求める人物像か否か」を、はじめの5秒だけで見極めることはできない。他職と同様、教職も子どもや保護者などの「相手の立場に立った」言動が強く求められる生業である。面接官は、何気なく受験者と言葉をやり取りしながらコミュニケーションを深めていき、何を考え、どんなことをどのように話す人物なのかを聞き分け見極めながらその人物の輪郭を描いていく。当然、爽やかな挨拶と笑顔で入室できる学生は印象良く面接官に受け入れられ、肝心のコミュニケーションの中身で勝負できることになる。第一印象での違和感＝マイナスイメージは、短時間の面接では致命的なのは言うまでもない。

3. 教師のお仕事入門での仕掛け

昨年の事業報告では、センター事業の一つである「教師のお仕事入門」を取り上げた。その中で、学生の学びの成果を二点に絞って報告した。

一点目は、学校現場を訪問した多くの学生が、初めて「教師の視点と立場」で学校を見ることができたことである。その結果、一回生の段階で、教職へのモチベーションがより高まり、所謂「やる気スイッチ」が入ることになった。(写真1)

二点目は、小中一貫校を体験した学生が、初めて「9年間のスパンで教育を継続することの大切さ」を知ったことであった。これは「児童生徒の視点と立場」から見えてきた課題に対し、発達段階に応じて



写真1

「一貫性のある生徒指導や学習指導を継続すること」の大切さを学ぶこととなった。

二つの学びの共通点は、「大学内で教えられた学び」ではなく、「自主的に学校現場に出かけて感じた学び」であった。実習先では「大学生」ではなく「先生」として児童生徒と接するために、学校という場所を「教師と児童生徒の両方の立場」で見つめ直す機会を得たわけである。センターが取り組んでいる「教師のお仕事入門」や「インターンシップ」のような学校現場体験は、面接の極意とも言える「相手の立場に立つ」という視点にアプローチできる絶好の仕掛けなのである。

4. 就職活動の「繰り下げ」

ところで、日本経済新聞等の報道によると、2016年春卒業生の就職活動は、日本経済団体連合会の「倫理憲章」の改定により、スケジュールが大幅に「繰り下げ」られるという。広報活動解禁は3か月遅れて3月に、選考活動解禁は4か月遅れて8月からとなる。学業や留学を優先するためという。

しかし、「繰り下げで学業に専念できるとは思わない」や「就活、解禁前に本格化。外資系すでに内定も」「学生7割インターン参加。前年の3倍の企業が実施へ」等のヘッドラインが示すように、結局、2015年春卒業の学生よりも準備が早くなるのではないかという懸念があるという。

2016年の採用市場が拡大傾向といわれていることと合わせて、この繰り下げは採用数が先細りの教採に微妙な影響を与えるだろうし、学生の4年間の過ごし方やセンター対応にも変化が求められることになる。

5. 教採での「前倒し」

(1) 教師塾での前倒し

昨今、大阪エリアでは、平成19年の堺・教師ゆめ塾開設を皮切りに、大阪教師セミナーや大阪市教師養成講座など、自治体が自ら、受験者の資質向上を図り、即戦力として期待される人材を育成する取り組みが積極的に行われている。これらの教師塾に共通している謳い文句の一つも「学校現場体験ができる」ということである。そして、この教師塾を修了すれば、教採の1次選考を全免除する自治体も現れているため、教職志望の学生にとってモチベーションの上がる仕掛けとなっている。

しかし、教師塾の面接選考は3回生の6月頃である。通常の4回生の夏の教採を基準に考えると、1年1か月も前倒しとなっている。

(2) 教員チャレンジテストでの前倒し

さらに、大阪府では、教員チャレンジテストと銘打った教職教養テストで、一定以上の正答率を得れば、教採1次選考・筆答テストの筆答選考を免除することになった。教育現場の様々な今日的課題の解消を図る一つの方策であり、教採の計画的な受験準備を支援するための仕掛けであるという。このテストは、2回生の12月から受験できるので、前述の基準で考えると、1年6か月もの前倒しとなっている。

(3) 志望自治体に応じて必要となる柔軟な対応

このように、教師塾や教員チャレンジテストは、本来の目的と合わせて、教職へのモチベーションを高めるインセンティブ（免除措置）として学生の目に映り始めている。従来なら、教採本番は2、3年以上も先のことと考え、教採対策の開始を逡巡していた1、2回生が、「まずは1年後」という短期スパンの中で教師になるための準備を始めることができるようになった。

しかし、1年たって不調に終わった学生の中には、自身の事前準備の首尾の如何に関わらず、安易にモチベーションを低下させてしまう学生も見られた。不調結果だけを直視するあまり、2回生という早期で「教採を諦めたい」という相談も発生した。

教師塾も教員チャレンジテストも、学生が学業に専念できるようにという配慮からの前倒しではあるが、その合否が4回生になってからの教採に大きな影響を与える可能性があるという皮肉な仕掛けとなっている。兎にも角にも、これらの仕掛けに乗るのなら、大学4年間の本来の学びを全うする一方で、別途の考え方に基づいた早期対応が必要となっている。センターとしても、新たなケアが必要な事象である。

6. キャリア教育科目での学び

教採での人物重視の傾向を受け、キャリア教育科目である「学校教育演習Ⅰ・Ⅱ、教育学特講Ⅰ」の授業で、様々な面接場面を再現して学生に体験してもらった。この授業は毎週金曜日4限目に行われ、前期と後期に分かれている。本稿では、後期の3回生および科目等履修生合わせて約25人を対象者としている。センター担当教授の井上雅彦先生と2人で担当した。

(1) 授業テーマ

- ①学校現場で起こるさまざまなシーンを研究し、実践的な対応力を身につける。
- ②教採の面接で問われる教員としての資質や能力について学ぶ。
- ③「敵を知り己を知れば百戦殆うからず」の言葉通り、教採面接の実態を模擬体験し、「どの

ような自分」を伝えたいのかを分析する。

(2) 全 15 講の演習概要

- ・第 1 講～第 3 講 「自己紹介から自己 PR へ」体験
- ・第 1 講～第 10 講、第 14 講～第 15 講 「集団面接」体験
- ・第 2 講～第 5 講 「集団討論」体験
- ・第 3 講～第 7 講 「場面指導」体験
- ・第 6 講～第 11 講 「模擬授業」体験
- ・第 12 講 「公開アクセス講座」 堺・教師ゆめ塾指導教官 岩井智代子氏による講演
- ・第 13 講 「青色パトカーと地域防犯」 大阪府警察本部・富田林市による出前授業

(3) 「自己紹介から自己 PR へ」の授業での振り返り（下線部は筆者）

- ・人前に立って話すことへの苦手さをもっているのは自分だけではないということを感じた。最近の教採の傾向が、面接重視であることも初めて知った。人前で話すことや考えをまとめて伝えることが苦手なのでこの授業を通して克服していきたいと思った。
- ・この 15 回を通して、限られた短い時間の中で私という人間をわかってもらえるように伝える力をつけたいと感じた。私の知識や過去の経験をもとにどんな私を理解してもらったらいのかを整理したい。「1 分間で私を語る」ための自己分析を始めます。
- ・緊張すると言葉がうまく出てこなくて頭が真っ白になりました。自分が言おうとしていることとは違う言葉が出てくる自分を知りました。自己コントロールの力が付くように仲間と共に学びを深めたい。

(4) 「集団面接」の授業での振り返り（下線部は筆者）

- ・面接を面接官側から見ていろいろなことが分かった。他の人と比較されるので、質問の受け答えの時の姿勢や目線、声のボリューム等もとても大切だということを知った。来週からはもっと積極的に授業に参加したい。
- ・挨拶・笑顔・元気が大切。集団面接を見ていると、確かにこの 3 要素はよく目につく。答える内容はこれからの仕込みだが、この 3 要素は教師になりたいという使命感、熱意、気持ちの現れそのものだから、しっかり身につけて面接官に感じてもらうようにしたい。
- ・大学生ではなく社会人としての礼儀・マナーが求められることが分かった。受動的な態度では授業はもちろん本番の面接もつまらないものになる。自発的に授業に臨むことが一番大切だと感じた。

(5) 「集団討論」の授業での振り返り（下線部は筆者）

- ・グループの人の話を聞きながら、自分の意見を考え、まとめることが難しかった。相手を打ち負かしてしまうのではなく、全員が協力してテーマに対して一つの結論を出すための配慮が大切だと分かった。
- ・話の切り口を見つけることの大切さが分かった。テーマを深めるために複数の視点で考え、そこから討論を広げる必要があると感じた。何はともあれ、事前準備の足りなさを痛感してしまった。
- ・論点がずれたときの対応力や、相手の考えに基づいて話をつなげる力を身につける必要があることが分かった。自分の意見を言うことに必死になってしまったが、全員が何を言っているのかをしっかりと聞けるようになりたい。声のボリュームや張りにも注意がいる。
- ・人の集団討論を見て学ぶことが多かった。ボランティアなどで経験があると説得力がある。話す内容に具体性もてるように、自分の経験を振り返って言うことが大切だと気付いた。
- ・何故このテーマが問われるのかということを見抜ける力をつけたい。意見を言う時に、教師の立場だけでなく、子どもの視点や保護者の視点から考えると違った発想が生まれ、テーマの解決に近づけることが分かった。

(6) 「場面指導」の授業での振り返り（下線部は筆者）

- ・一人芝居の形になるが、一方的にならず、子どもに話しかけて子どもの声を拾うことが大切だと分かった。
- ・子どもと目線の高さを合わせる人の場面指導は、雰囲気が良かった。子どもの発達段階を踏まえた指導ができるようにしたい。
- ・指導という言葉にとらわれずに、子どもとのコミュニケーションスタイルで対話をして、その事象について子どもに考えさせるような指導をめざしたい。
- ・広く全体を見ながら、クラス全員をしっかりと掌握して話す必要がある。
- ・家で何度も場面練習をして授業に臨んだが、人前でやってみるとさっぱりだった。教師になりきって、自信をもって指導しないと頼りなく見える。

(7) 「模擬授業」の授業での振り返り（下線部は筆者）

- ・模擬授業の順番が回ってくるまで緊張感が高まって不安でいっぱいだった。家の人や友人に頼んで練習してきたはずなのに、実際は上手く出来なくて悔しかった。自分が教えることに必死になってしまった。これからは、指導案を練り直し、もっとシンプルにして子どもの反応をベースにした授業にしてみたい。
- ・5分をイメージして授業をしてみたが、自分だけがしゃべって3分半で終わってしまった。

一人相撲のようになっているので、子どもたちとのやり取りを大切にして子どもと一緒になった授業をしていきたい。

- ・机の配置をあらかじめコの字形や班体型に設定しておくという模擬授業は、コミュニケーション活動を意識した良い例だと感動した。
- ・家庭学習をベースにした授業の展開という視点が優れていた。45分の授業中でできることは限られている。家庭学習の充実が子どもの学力向上につながるという発想をもっていることを模擬授業で示したい。
- ・回数を重ねるごとに、他の人たちへの注意点を吸収し、自分の技量として活用できる人が多くなった。子どもの思考力を高める授業内容に変化した人が多く、練習の成果が出ているなあと思った。

(8) 全講義を通しての感想（下線部は筆者）

- ・この授業で面接に対して自信が持てるほど上手になったわけではないが、授業内で何度も前に出て人前で話をする中で、緊張状態での自分が陥る癖のようなものを見つけることができた。また、他者との比較の中で自分自身の良い点と良くない点を発見できた。「敵を知り己を知る」という授業のねらいに迫ることができ達成感を感じる。これからも練習を積みみたい。
- ・私は教師塾に不合格だったが、授業内で、堺・教師ゆめ塾の先生の話が聞けたり、大阪府警察本部の警察官の方と一緒に青色パトカーに乗車できたり、人生で初めて体験するようなこともできた。これらのことは面接時だけでなく将来の自分の宝になる。主体性を重んじる楽しい授業であった。（写真2～4）
- ・始めは話すことが苦手で緊張ばかりしていた。しかし、実際に前に出て話したり討論をしたりして、自分の意見や考えを人に伝えることに自信が持てるようになった。楽しくなってきた。自分のことをしっかり理解して、面接官に分かりやすくたくさんアピールしていきたい。



写真 2



写真 3



写真 4

- ・自分の所属学科は他学科生との交流が少ないので、この授業を通じて他学科生と知り合うことができた。教員免許状取得のみが目的の空気に慣れてしまっていたので、刺激を受け、良い経験となった。もっともっと練習して、「本番で自分の最大限の力が出せるように頑張りたい！」という向上心も大きく膨らみました。
- ・講義型ではなく実際に前に出て行う模擬授業や場面指導、集団面接などとても良い経験になりました。その都度アドバイスだけでなく、「ここが良かったよ！」とか「自分の子どもをあなたに預けたいと思った。」など嬉しい言葉もいただいて、自己肯定感も上がりました。受けてよかったなあと思える授業でした。
- ・面接の実際を完全再現して、場の雰囲気を実際に感じることができた貴重な授業だった。人前に立つことが怖くて、嫌だな、行きたくないなど思うこともありストレスのある授業だったが、途中で諦めることなく最後まで授業を受けることができ達成感をとても感じることができた。
- ・この授業では教採に関する知識がとて多くなっただけでなく、なぜ面接でそのような質問がされるのかという背景を教えてもらったので、考える基準が分かって良かった。初めのうちは、面接ノートをこしらえて答の引き出しを多くすることが大切だと思っていた。でも、その引き出しは木に例えると葉っぱの部分であることがわかった。葉っぱのくっついている枝や幹の部分、すべて「生きる力」という根っ子に繋がっていることが見えてきた。「木を見て森を見ず」になるところだった。

7. おわりに

人は「見かけが9割」と言われる。人物評価の「ものさし」は、まず、礼儀やマナーが身についているかどうかである。「自分が基準」のお洒落と、「相手が基準」の身だしなみを普段から峻別して行動したいものだ。冒頭述べたセンターのオフィスに入室する学生に感じた「違和感」の正体は、コミュニケーションをとるときに「相手基準」というマナーの原則に則っていなかったからではないだろうか。「相手の立場に立つ」という視点は、「見た目」においても「中身」においても、コミュニケーションを充実させる面接の極意と言える。

企業の就職試験と違い、教採は合格者の6~7割が講師経験者などの社会人で占められることが多い。教採受験経験があり、教職や社会での経験も豊富なライバルたちと互角の勝負に持ち込むためには、「どんな自分を理解してもらおうのか」を明確に準備する必要がある。授業を通して学生たちは、その「自分の売り」を「教師の立場」と「子どもや保護者の立場」の両面で語ることの大切さに気付くようになった。

最後に、平成26年度の教採合格者数は、昨年度の約1.5倍となった。センターの使命とし

敵を知り己を知れば百の面接殆うからず

て、単年度ごとの成果が出ることは悦ばしいことである。しかし、課題山積の教育現場が求めている教員は、一年後も、十年後も元気で頑張ってくれる教員である。長い目で教職を捉え、教採合格を経て二十年後、三十年後でも、信頼され「へこたれない教師」として活躍し続ける人材がこの志学台から数多く巣立ってほしいと考えている。

【事業報告】

「総合的学習の研究」の講義を通して 培いたかったこと、伝えたかったこと

井上 雅彦*

1. はじめに

「おーい、巻き尺をピーンと引っ張ってやあー」

「池の端から端まで何メートルになったかなあー」

これは、私が小学校の6年を担任していた時の“総合学習”で取り組んだ劇的一幕である。総合的な学習の時間が学習指導要領の総則に位置付けられ、小中学校で実施された平成14年以前の平成8年のことである。国語（地域教材「下の池物語」の読解）、社会（田畑の分布、フィールドワーク）、理科（池の水質検査と生き物）、特別活動（表現活動としての創作劇）といった教科・領域の枠組みを超えた総合学習に取り組んだ。そこでは、子どもたちが、学校に隣接している「下の池」の現状と歴史を知ることによって様々な気づきを感じてほしかったし、多様な学習コースから選択できる力や問題を解決する力、学習したことを表現する力をつけてほしかったからである。

教職生活37年のほとんどを小学校教育に勤しんできた私自身が、本年度、本学で、教員免許状を取得し、教職をめざす学生に、初めて授業を持たせていただくことになった。今、教育現場では、ベテラン教員の大量退職と若年教員の大量採用の渦中にあり、どの職場も若い先生方の新鮮な息吹が感じられている。総合的な学習の時間は、子どもたちの良さが発揮できる最高の場であるとともに、若い教員にとっても、教員としての力量を身につける最高の場でもある。「総合的学習の研究」の講義を通じて、私が、学生に、培いたかったことや伝えたかったことを、本紀要の一部をお借りし述べたい。

*大阪大谷大学教職教育センター担当教授

2. 大切にしてきたこと

(1) オリジナルな学習指導案の作成

総合的な学習は、児童生徒にとって、「生きる力」を育む重要な学習である。その具体的な目標と内容は、各学校が定めることとなっており、各学校の創意工夫により、各教科、道徳、特別活動等の学習と連動し、ダイナミックな教育内容を創ることが可能である。そのためには、各学校が、児童生徒の実態や地域の実態を的確に把握し、児童生徒にどのような力をつけていくことができるか、どのような子どもに育てたいのか、地域の方々にどのような協力・支援が得られるかという視点を、教職員一同が共通認識を持っておかなければならない。それらを目の前にいる児童生徒に、具体的に指導・支援していくのに必要なものが学習指導案である。

学習指導要領にある総合的な学習の時間の目標や内容の取扱い、また、創設までの歴史や経緯、並びに先進的に取り組んでいる実践事例などから学んだことを踏まえた上で、各自のオリジナルな学習指導案を作成することを最終目標とした。

(2) 実践アクセス講座

実践的指導力の基礎を培うことを目標に、公開講座として設定している教職教育センターの実践アクセス講座は、学生が子どもたちや教育現場の現実に学び、そこから、今日の教育課題を感じ取り、教職を目指す自己の生き方を見つめ直し、教員として生きる喜びと厳しさを感じ取ることができる講座である。総合的な学習の時間が、学校現場で、実際に、どう取り組まれているのかを学生が学び、今後活かしていくものを得られればと思い、本講義においても、このアクセス講座を活用させていただいた。

本講義では次の3つの講座を実施した。

- ①小学校における総合的な学習の実践 講師「富田林市立新堂小学校」志野善崇 教諭
- ②小学校における総合的な学習の実践 講師「松原市立布忍小学校」大西亮一 教諭
- ③中学校における総合的な学習の実践 講師「松原市立松原第三中学校」森山伸治 教諭

今回の実践アクセス講座の特徴は、3講座とも、学校ぐるみで取り組まれたものであり、人権を視点に置いた総合的な学習であった。新堂小学校では、地域をキーワードに、布忍小学校では、子どものつながりをキーワードに、松原第三中学校では、人・ものの見方や考え方をキーワードに取り組まれた実践で、それぞれが、映像や語り、ワークショップを通じての講座であった。学生にとっては、総合的な学習のイメージをより具現化でき、聞けて、動けて良かった。

「総合的学習の研究」の講義を通して培ったかったこと、伝えたかったこと

たという感想が多く見られた。

◆振り返りシートより

地域のことを学ぶとき、教師が地域のことを教えるのではなく、実際に地域の人に直接聞くことによって、リアリティが増し、子どもたちがより興味を持つことができるなと思いました。さらに、目標を決めて取り組むことで、学ぶ意欲が増すと思いました。総合的な学習の時間の中で、地域の人のお話を聞いたり、自分で調べたり、調べたことをみんなに伝えることによって、個人的にも、集団的にも成長することができ、このことが将来、社会に出るときに役立つものとなるのだと分かりました。私が教師になったときには、子どもたちの将来のために貴重な時間に使いたいです。学んだことを生かして、これからも教師になる夢に向かって頑張ります。

(新堂小学校の実践より)

3年生のAさんやBさんの話を聞いていて、小学3年生には辛すぎるような体験・経験をしていてすごく心に打たれ衝撃を受けました。また、そんなAさんらの周りの友だちの心の豊かさ、寛大さ、思いやる気持ちの大きさが心に響き熱いものを感じました。この3年生たちの経験は一生忘れられないものになるだろうと思うし、3年生とは思えない大きな人になったのだろうと思います。その背景には、担任の先生の支えがすごく大きかっただろうと思います。この総合学習を通じて、また、学級活動を通じて大きく成長できているそんな児童と関われる教師になりたい気持ちが以前より増しました。

(布忍小学校の実践より)

“伝言ゲーム”を通して情報を学びました。ゲームを通して授業をすることは、子どもたちは興味を持って授業に臨めると思います。うわさやかげぐちは、中学生の間ではよくある問題だと思います。大人の間でもあることで、それには根拠がないなとゲームを通して気づくことができました。

“誰かが言ったから”“聞いたから”などという言葉もよく聞きます。誰かが言っていると、ついつい根拠がなくても、聞いてしまうこともあります。子どもたちに根拠はないと教えるだけでなく、“それ本当?”とって考えられるようにすることも、教師としての大事な役割なのかなと感じました。

(松原第三中学校の実践より)

今回は参加型の講義で、聞くだけでなく、実際に体験することで、子どもたちの気持ちを身近に感じることができたと思います。大学生でも十分に楽しむことができたこと、また、私自身同年齢の子が少ない講義なので、楽しみながらコミュニケーションを取れる良い機会になったと感じました。

また、授業を構成するにあたり、事前準備や環境構成はもちろん、その活動後の子どもたちの様子も予測し、イメージしておくことで予想外の出来事にも対応できる視野の広さにもつながるのだと思いました。
(松原第三中学校の実践より)

(3) 学生の主体的な活動

本講義を通じて、学生に、文章能力（書く力）とプレゼンテーション能力（説明する力）及び、コミュニケーション能力（話し合う力）をつけてほしいと思った。それは、とりわけ、教職を目指す学生にとっては必要な力であり、各種面接や集団討論、模擬授業など教員採用試験にも役立つものであるし、それ以上に、教員としての資質や実践的に役立つ視点や能力と結びつくものとなると考えたからである。

文章能力は、毎回提出の振り返りシートへの記入や最終提出の「学習指導案」の作成を通じて、プレゼンテーション能力は、班の発表や全体報告を通じて、コミュニケーション能力は、班での話し合いや班活動を通じて培うことをめざした。

学生の主体的な活動を促進するために、3回の班替えを行い、班での話し合いを随時取り入れていった。そして、可能な限り、班で話し合った内容を全体報告し、共有化を図った。

①班の話し合いや班活動の主なテーマ

- ・実践事例（DVDの視聴）の感想
- ・HP等で自ら調べた実践事例の感想
- ・「学生自身のふるさと」のすばらしいところ
- ・アクセス講座の中で（「伝言ゲーム」～情報との付き合い方～）の班活動
- ・「総合学習で育みたい力」（KJ法的手法による）
- ・写真を通して学ぶ総合学習の歩み
- ・オリジナルな学習指導案の発表

②方法

自分で意見や感想を書く⇒班での話し合い⇒全体報告

③学生の主体的な活動例

ア. 「総合学習で育みたい力」（KJ法的手法による）

本講義の最終目標を、学生一人ひとりがオリジナルな学習指導案を作成することに置いたこ

「総合的学習の研究」の講義を通して培いたかったこと、伝えたかったこと

とは前述のとおりである。学習指導案を作成するにあたっては、子どもたちにどんな力をつけたいかという教師側のねらいが重要になってくる。本講義では、子どもたちにどんな力をつけることが大切なのかを、次のような KJ 法的手法を通じて、学生自身が話し合いで見つけ、共有し合った。

- ・自分で考え、各自、付箋に書く。
- ・模造紙に貼った自分たちの付箋を見て、班で話し合い、まとめる。
- ・まとめたものを短冊に書き、それを各班が前の大きいボードに貼り、みんなでグループ分けする。

◆振り返りシートより

私たちの班では、生きる力を一番大事だと考えました。そのためには、たくさんの力が必要だと思いますが、総合的な学習の時間では、特に、コミュニケーション能力と考察力・判断力・実践力を育てていきたいと思いました。

このような力を育てていくためには、地域の人たちとの交流や人権教育、環境について、外国についての授業を行っていかねばいけないのだと考えました。子どもたちにとって、この授業は、生きる上でとても大事なのだと気づくことができました。

今日の活動で、総合的な学習で育みたい力は、人それぞれにあって興味深いなと思いました。育みたい力をグループに分けるのは、なかなか難しくて悩みました。そして、私たちが考えた3つの力は、「行動力」「コミュニケーション力」「協力する力」です。その中でも、表現力や伝える力がたくさん出てきました。班だけでもたくさんの意見が出たのに、全班がそろったら、ホワイトボードいっぱいの意見が出て、同じような考えも、全然思いつかなかったような考えも知れて良かったです。一番多いと思ったのは、「協力する力」だと思いました。クラス全体で協力し、初めて本当の授業ができると思いました。

イ. オリジナルな学習指導案の発表と交流

2回に分けて、各班による学習指導案の発表を行った。地域のこと、環境に関すること、障がいのある方々や高齢者に関わる福祉を題材としたもの、平和や命を考えるもの、自分史や将来の夢・計画に関わることなどをテーマとした、102名のオリジナル学習指導案であった。発表ごとに、工夫していたこと、工夫すればいいところ、質問事項を聞き手が書き、それらをもとに、全員発表終了後に交流をした。交流後、班の交流内容を全体へ紹介した。

◆振り返りシートより

グループの指導案の発表を聞いて、生徒の実態や身に付けてほしいことをふまえた内容がきちんと書かれていると思いました。学習内容が多かったのが、自分と関係する職業や、町、自分の友だちを紹介するなど、自分が興味あること、実際に体験して話を聞いて分かったことを発表する内容でした。どれも、コミュニケーション力や相手に伝える力を養うことがねらいとしてあり、子ども主体の学習内容、問題解決型の内容で、指導要領に沿っていると思いました。

グループ内の発表の内容がテーマも学年も異なっていて、総合的な学習のテーマや、学びの幅広さを感じました。自分が発表する番だったのですが、もっと聞き手の立場に立って発表の仕方を考えるべきだったと感じました。詳しく説明をしすぎても、文章が長くなり伝わりにくいと感じ、どのようにすれば、相手に、より伝わるのかを考えて発表の準備をすることが大切だと思いました。

3. まとめ

学生は、先進的に取り組んでいる学校や地域の実践事例に学んだり、学生自身が小・中・高等学校で学んだ総合的な学習の経験や、自分の生まれ育った地域の良さや特徴を振り返りながら、様々な学校の総合的な学習の時間のねらいや内容を学んだ。まとめとして、総合的な学習を進めていく上で、教員として大切にしてほしいこと、伝えたいことを次に記しておきたい。

(1) 「あったかーい」人間に！

- ・「あったかさ」とは、豊かな人間性のことである。人の喜びや痛みに共感し、人とつながり、人間性を磨いていってほしい。クラスには、学年には、学校には、地域には、一人ひとり、個性のある、伸びる可能性をいっぱい持っている子どもたちがいる。その子どもたちは、先生の「あったかさ」を求めており、その「あったかさ」から、自身の持っている個性を生かし、仲間と共に、伸びていく。
- ・その「あったかさ」を、教職員で共有し、児童生徒への教育から、保護者の方々や地域の方々にも広げていくことが大切である。

「総合的学習の研究」の講義を通して培いたかったこと、伝えたかったこと

(2) 様々な情報に対して、敏感になることと、鋭い人権感覚を！

- ・ すぐく社会は動いている。その中の教育であり、子どもたちである。自分の周りの状況、子どもたちをめぐる状況、教育界をめぐる状況などに敏感になり、それらの情報に対して「なぜ？」から出発し、鋭い人権感覚を持ち、何が正しく何が間違っているのかを、見極めることが大切である。

(3) ピンチはチャンス！

- ・ うまく取り組めたときは、大いに、同僚、先輩と喜び合おう。困難に会うことも多々ある。その時は、ひとりで抱え込まず、同僚や先輩に相談する。ピンチはチャンスだととらえる考え方を持つことが大切である。